第 86 回理事会議事録

1. 日 時：2023 年 3 月 28 日（金）18 時 30 分～20 時 20 分
2. 議決方法：オンライン会議システム Zoom を使用した
3. 議事参加者：【理事 11 名】 鳩山勝郎、伊藤直彦、浅越琴美、久保公人、齋藤陽子、寺本直志、橋本公二、森村俊介、柳澤彰子、山田和彦、吉田正
【監事 2 名】 関口修、正村祐一
【事務局 2 名】 高野英樹事務局長、仲村篤志競技会事業部長
(理事現在数：13 名、定足数 7 名、本人出席 11 名)

4. 議事の経過及び結果

WEB 会議システムを用いて理事会を開催した。WEB 会議システムにより出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり適時的確な意見交換ができることを確認した。鳩山会長代行を議長に、議題を逐一審議した。

第 1 号議案 第 85 回理事会議事録の承認について
議事録案を承認した。

第 2 号議案 会員の退会について
以下の会員の退会が報告された。
貴志禎子（会員番号 101024）
松井眞喜子（会員番号 64190）
奥西美保子（会員番号 62057）

第 3 号議案 会員の逝去について
以下の会員の逝去が報告された。
高野弘子（会員番号 54755）

第 4 号議案 2023 年度予算案および事業計画書について
鳩山会長代行より 2023 年度予算について以下の説明があった。
2023 年度予算案は 1 月理事会の 448 万円の赤字予算から数字の変更はない。収入については 2022 年度よりは増加するものの、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度は残ると予想し、コロナ以前の 8 割程度を見込んだ。経費については国際交流事業で日本代表およびユース代表の APBF、世界選手権への派遣を予定し、普及事業はコロナからの回復による経費増を見込んだ。その結果、経常収益 157,630,000 円、経常費用 162,110,000 円、総額 4,480,000

円の赤字となる 2023 年度予算案が提出された。全理事による検討、確認の結果、3 月 24 日にこれを承認した。

鳩山会長代行より 2023 年度事業計画が提出された。全理事による検討、確認の結果、3 月 24 日にこれを承認した。

鳩山会長代行より 2023 年度の資金調達および設備投資について計上を行わない旨提案があった。検討の結果、3 月 24 日にこれを承認した。

なお、監事は 2023 年度予算案、2023 年度事業計画書、2023 年度資金調達および設備投資について異議を述べなかった。

第 5 号議案 福岡 BP からの連帯保証人の依頼について

鳩山会長代行より福岡 BP からの連帯保証人の依頼について以下の説明があった。

福岡 BP から、福岡 BP が 2023 年 4 月 1 日から 2 年間の賃貸借契約を新たに締結するにあたり連帯保証人を JCBL に引き受けてもらいたいとの依頼がきている。

福岡 BP は 2016 年 9 月まで通常より非常に安い金額で部屋を使用できていたが、その後は徐々に家賃の坪単価が上昇し、2023 年 4 月より、まだ世間相場よりは安い金額ではあるものの以前よりは家賃が上昇する形での契約を締結することとなった。コロナ禍もあり福岡 BP の経営状態も楽ではないため、2023 年 4 月よりエントリー費の値上げを行って福岡 BP は収支を合わせていく。福岡 BP の長期貸付金については 2022 年度に 48 万円の返済が行われ残金はなくなっている。

検討の結果これを承認した。

第 6 号議案 国際大会開催準備金の積み増しについて

鳩山会長代行より国際大会開催準備金の積み増しについて以下の提案があった。

国際大会開催準備金は 2020 年に積立金の上限を 2,000 万円に引き下げたが、コロナ禍で公益事業経費が減少しているせいもあり、現在は遊休財産が法定限度を超過している。また、旧パシフィコシリーズの預り金が 2021 年度末で約 700 万円あるが、横浜ブリッジフェスティバルの開催停止に伴い、取り崩しを行い公認料収入として利益計上を行うべきであるとの公認会計士の指摘を受けており、遊休財産の増加が見込まれる。それらの状況をうけ 2022 年 6 月理事会において、国際大会開催準備金の積み増しを方針決定したが、2023 年 3 月末時点での積み増しの金額を 1,000 万から 2,500 万円の範囲とし、決算結果を踏まえての数字の最終判断は一任とさせてもらいたい。

検討の結果これを承認した。

第 7 号議案 2022 年度センター支援について

鳩山会長代行より 2022 年度センター支援について以下の提案があった。
今年度も新型コロナウイルス感染症の影響が続き、全国のセンターの経営は非常に厳しい状況が続いている。JCBL の 2 月末時点の収支を基にした決算見込みは 2,000 万円程度の黒字であることから、2022 年度は総額 1,500 万円のセンター支援を行うこととし、金額の計算式は 2021 年度と同様に 50%を一律、50%を公認料に比例としたい。
検討の結果これを承認した。

第 8 号議案 規則改正について

寺本競技委員長よりマスターポイント規則第 13 条および競技会運営規則第 25 条の修正案が提出され、ペア戦においてディレクターが代理のプレイヤーを運営の都合上参加させたときのマスターポイント、およびボード・ア・マッチチーム戦におけるアベレージプラス、平均獲得 MP に関する修正が提案された。
検討の結果これを承認した。

第 9 号議案 2022 年度の寄附について

鳩山会長代行より 2022 年は高松宮妃癌研究基金に 10 万円の寄附を行いたい旨提案がありこれを承認した。

第 10 号議案 各委員会および事業部報告

1. 企画委員会

吉田企画委員長より 2 月 8 日および 3 月 8 日に行われた企画委員会について以下の報告があった。

マスク着用については、3 月のマスク自由化および 5 月のコロナ 5 類への移行に伴い、5 月まではマスクの着用を引き続き強く要請し 5 月以降はセンターの判断を尊重する方針を、2 月に首都圏ブリッジセンターへ通知した。手洗い、換気、消毒といった基本的な感染対策は 5 月以降も継続していく。検温、仕切りパネル、その他の感染対策は 3 月からセンターの判断で緩和してよいものとした。

会員・会友の人数の推移については、2022 年度は 2020 年度、2021 年度に比べると減少人数が半分程度にまで少なくなったが、年間で 200 人以上の減少となる見込みである。

記録保管制度については、2016 年秋の制度開始から約 6 年半で合計約 50 件の報告がきている。2022 年度はこれまでに比べ報告件数がかなり少なくなっているが原因は不明である。

2. 代表選抜委員会

橋本代表選抜委員長より 2023 年アジア競技大会の報償金について提案があった。検討の結果、4 月理事会で引き続き検討を行うこととした。

橋本代表選抜委員長より 2023 年 APBF 選手権の選手およびキャプテンについて以下の報告があった。

2023 年 APBF 選手権

オープン代表

奥野良、小原明、陳悦辰、陳大偉、古田一雄、李斌、NPC 加来浩

ウィメン代表

大手瑠利、白銀もとみ、高崎恵、原澤沙依、福吉由紀、宮部佳世子、NPC 三浦裕明

ミックス代表

上田哲也、上田真理子、長尾美穂、野田裕之、野田祐子、PC 花山武志

シニア代表

井野正行、今倉正史、PC 大政哲人、ロバート・ゲラー、前田尚志、山田和彦

3. 競技委員会

寺本競技委員長より 2 月 1 日に行われた第 281 回競技委員会について報告があった。

4. 普及事業部

齋藤普及事業担当理事より 2022 年後期の大学授業の単位取得者数について報告があった。

5. 競技会事業部

山田競技会事業部担当理事より競技会事業部活動状況および資格取得者の報告があった。

6. 国際交流事業部

吉田国際交流事業担当理事より APBF ユース選手権が 2023 年 5 月に中国で開催される旨報告があった。

7. 広報事業

柳澤広報担当理事より 2 月 20 日に日経新聞朝刊 23 面「18 歳プラス」の道しるべに掲載されたブリッジの紹介ならびに 3 月 24 日（四谷）、3 月 30 日（渋谷）の春の体験会の案内について報告があった。

8. 法人・管理部

寺本法人・管理担当理事より 2 月末時点の比較財務諸表、月次収支実績、クラブ勘定残高について以下の報告があった。

月次収支については 2 月末時点の累計で約 3,500 万円の黒字であり順調である。クラブ勘定の残高については問題がない。

第 11 号議案 その他の議案

1. 次回理事会開催について

次回理事会は 2023 年 4 月 28 日（金）18 時 30 分よりオンラインにより
開催する

2023 年 3 月 28 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

第 86 回理事会

代表理事 鳩山 勝郎

監 事 関口 修

正村 祐一

議事録作成者 寺本直志